

「ふるさと・人・命」を大切にし、夢や目標に向かい粘り強く努力する児童の育成
～「一まつり」を中心とした地域とのつながりのあるさまざまな体験を通して～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
水俣市立 水俣第一小学校	水俣市立水俣第一小学校学校運営協議会 平成25年3月1日 指定	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 1名 1名	水俣市地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校学校教育目標「『ふるさと・命・人』を大切にし、夢や目標に向かって粘り強く努力する児童の育成」を実現するためには、地域と連携しながら、様々な体験活動を通して児童の心の育成、意識高揚を図る必要がある。一方で、地域とのつながりが希薄になったとされる現代において、体験活動の設定は、学校の力だけでは難しい。そこで、学校運営協議会や育友会(PTA)に、地域の人材や事業所等とのコーディネートを依頼し、本取組をスタート、継続している。

目標や目指す姿(学校)

自分の住む地域(ふるさと)を大切にする意識の向上

目標や目指す姿(地域)

学校や児童とのかかわりを通して元気になる地域



水俣市立水俣第一小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- 地域学校協働活動推進員
- 自治会関係
- 地域有識者
- 中学校校長
- 民生委員・主任児童委員
- 学校ボランティア
- 育友会(PTA)役員
- など、計 **15** 名で構成
- 学童クラブ関係者
- 年間平均 **4** 回程度開催

効果的な運営の工夫

学校運営協議会の開催を、授業参観や行事等と同一日に設定している。
委員は授業参観を行うことで、教員の指導や児童の様子、教育環境の状況を把握しやすい。、その後の会議でも意見を出しやすく、学校運営の改善につなげることができる。
また、本校の体験活動の中心とも言える「一まつり」(全学年による職業体験)の際も学校運営協議会を設定し、学校教育目標達成へ向けた話し合いを継続している。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

「一まつり」開催と同日に学校運営協議会も開催している。児童が職業体験する様子を参観した後、協議会を開き、本取組への助言や指導を仰ぐ場としている。この意見を次年度に反映し、職業体験の質を向上させてきた。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

本校の体験活動の中心とも言える「一まつり」は全学年が同一日にさまざまな職業体験を行う。令和3年度は水俣市内の19業種の事業所が協力し開催した。



R3「一まつり」体験の様子

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会や育友会(PTA)の会議の際には、本校教育目標や本校の課題を丁寧に説明している。また、機会あるごとに説明や情報提供を継続し、常に地域と課題を共有するようにしている。平成27年度から始まった「一まつり」は、地域やふるさとを大切に児童の育成を目指す本校の特徴的かつ代表的な取組となったが、地域と学校が「こんな子どもたちを育てたい」と方向性を共有した結果であると考えている。

取組

成果・効果

〔指標〕

	指標1	指標2		指標1	指標2
	今住んでいる地域の行事に参加しているか	地域や社会のために何をすべきか考えるか			
H31	65%	68%		60%	55%
R3	67%	58%		52%	52%
R4	60%	53%		62%	51%

〔成果など〕

- ◆「地域を大切にすることに関係する質問」に対しては、年度によりややばらつきはあるものの、本校児童の肯定的な回答は全国平均と比較して、同程度か上回る結果である。
- ◆R3及びR4の6年生は、入学からずっと「一まつり」を体験してきた学年であるが、「地域を大切に」という意識が高いと言える。
- ◆「一まつり」を中心に、事前事後の学習、一まつりにつながる体験、学年間の系統など、「ふるさとを大切に児童の育成」に係るカリキュラムが構築できた。
- ◆「一まつり」に協力する事業所の中には、本取組への参加を楽しみにしている所もあり、地域の活性化に貢献している面も感じられる。
- ◆事後の児童の感想には地域の事業所への思いを綴ったものも多く見られる。中には「●●(参加していただいた事業所名)で働きたい!」といった感想も見られる。

「全国学力・学習状況調査」の質問紙において、それぞれの質問に肯定的な回答をした児童の割合。青は本校平均、赤は全国平均。R2は中止。